

## 【入 選】 世界と水

私の生活では、水道の蛇口をひねれば、透明できれいな水が出てきます。それを当然だと私は思っていました。日本ではどこへ行ってもきれいな水が飲めないことがなかったもので、きれいな水がない世界のことなど考えたこともありませんでした。しかし、夏休みにグアム島に旅行し、水道水が飲めないことを体験しました。コンビニに行き、水を何リットルも買うことになり、とても驚きました。水は決してあって当然のものではないのです。

そんな時、「もし世界が百人の村だったら」というテレビ番組を見ました。その村では子供達が朝早くから何キロも離れた池までの道を何回も往復して水を運んでいました。しかも、水はほとんど泥水。その泥水を飲み、生活用水として利用していました。その結果、子供達は皆伝染病に罹っていました。私にはあたりまえの透明で安全な水を思い、世界の差を知りました。あの子供達にも透明で安全な水を飲ませてあげたいと思い、そのテレビ局の募金活動に協力しました。

一年たち、その村の様子が再び番組で取り上げられました。あの時の募金で井戸が掘られていました。砂漠地帯でなかなか水を掘りあてられません。一度は諦めの声も上がりましたが、それでも、何としてもきれいな水をと頑張っている日本人スタッフの姿を私は祈るような思いで見つめていました。乾いていた土が段々黒く湿り、ついに水が噴き出した瞬間は涙があふれて止まりませんでした。画面の向こうで村の人達がみんな笑顔できれいな水を飲んでいる。そのことに私も少し協力できた。そのことが嬉しくて、今でもあの時の感動が甦ってきます。

このことで、私は改めて水の大切さを感じました。井戸が掘られるまで泥水を飲んでいた少年は伝染病で下半身不随となり、いつも地面に足を引きずりながら移動していました。開発途上国では一日に3,900人もの子供が亡くなっていると知り、愕然と

## 栃木市立東陽中学校 二年 服部真由子

しました。これだけ水というものが私達人間の生活に欠かせないものであり、なおかつきれいで安全でなければならないと感じました。そして、日本では水に関する施設等が整備され、いつでもきれいな水が使えることに感謝しなければいけないと思います。

しかし、一方できれいな水がいつでも使えるために、人々の水環境への意識が薄れているようにも感じています。

私がある山に登った時、きれいな川を見つけ、その水をすくって飲むと、体中に水が行き渡り、そのおいしさにとっても感動しました。ところが別の山では、登山道には空き缶が散乱していました。休憩所まで行くと、小さな川が流れていて、水を飲もうとすると、地元の人に飲まないように止められました。

「昔はもっとたくさんの方が流れていて、とってもおいしい水が飲めたんだよ。」と、寂しそうに教えてくれました。

このように豊かな自然の恵みが少しずつ消えつつあるのです。自分達はきれいで安全な水が飲めるから少しくらい汚しても問題はないということは絶対はない。もしあまい考えを持っている人がいたら、今すぐ改めてほしいと思います。恵まれた水環境であるからこそ、私達はもっと自然を大切にしなければいけません。きれいで安全な水を維持する設備や活動についても学ばなければいけません。そして、日本が水の大切さについて世界のお手本の国となれば、今以上に水に恵まれない国への活動も推進していけると思います。

命あるものすべてに欠くことのできない水。生命の源であり、人の生活や自然、そして人の心を潤す水。この大切な水を守るために私のできることから、まず始めていきます。生活排水を汚さない工夫や節水と、小さなことから始め、その活動の輪を私から家族へ、友達へ、地域へと広げていきたいです。